

令和7年度 女性委員・会員等と議会の意見交換会

(記録)

- 1 開催日時 令和7年11月15日(土) 午前10時00分～午前11時30分
- 2 会場 胎内市役所3、4階(①全員協議会室、②委員会室、③301会議室)
- 3 実施要領 常任委員会別に3グループに分け、それぞれのテーマを設定し意見交換を実施。
- 4 参加者 17名(市内の女性委員・会員等【11団体】)、公募2名
胎内市民生児童委員協議会連合会、胎内市商工会女性部、
北新潟農業協同組合胎内支店女性部、胎内市保健推進員、
たいない青少年育成会議、胎内市消防団、
胎内市介護予防・日常生活支援体制整備推進協議会、
胎内市男女共同参画推進委員会、胎内市農業委員会
胎内美人妻の会、地域おこし協力隊
- 5 意見交換内容

【1班】テーマ：『子育て・教育・学びについて』

【グループ】

*参加者：8名

*議員：総務文教常任委員会(5名)

委員長 笥 智也、副委員長 坂上 清一

委員 天木 義人、小野 徳重、佐藤 武志

【発言要旨】

- 1 こどもの数が少ないので、スポーツ少年団など団体競技ができない。もし、させようとしても送迎が必要となり、仕事等で送迎できない場合は諦めるしかない。
- 2 小学校のサポーターズをしているが、授業で先生の補助やマラソン記録会の誘導係など何回か携わっていると、子ども達も地域に溶け込もうとして会話が生まれるし、地域の高齢者も生き甲斐を得ることができる。

- 3 胎内小学校の放課後子ども教室では、週一回、地域おこし協力隊や新潟食料農業大学の生徒さんなども来てくれ、年齢を超えて楽しく遊べてよい。
- 4 室内で遊べる環境が減っていると感じる。学校では、曜日分けて体育館やランチルームで遊んでいるが、そうでない日はタブレットなどで遊んでいる。また、昔は遊ぶ際に公園などに集まったりしたが、公園がある地域が少なくなったように感じる。
- 5 妊娠を機に、胎内市に引越してきて出産したが、その際、保健師さんがすごく良くしてくれた。双子であったため大変な状況を覚悟したが、たまたま双子の出産が多い年であったこともあり、保健師さんが「双子の会」なるものを作ってくれて、保健師さんが子供を見てくれている間、ゆっくりお茶を飲んだり経験したことの情報交換をしたりと有意義な経験をさせていただき感謝している。
- 6 開志国際高校と新潟食料農業大学の学生は、遊ぶ場所がない、地域の人との関わり方が分からない、どんな農家・仕事があるのか知りたいという声を聞く。学生は多くが市外・県外・国外であるため、胎内市のことを知らない子が多い。どのように地域と関われるか悩んでいる。
- 7 地域で子どもの声がほとんど聞こえなくなった。交通安全指導に立っていても一人通るくらい。数年前からお祭りでは山車を出すのが、子供会は参加しないこととなって、交流がなくなってしまった。他の地域で子どもと大人が混ざり合って地域ぐるみで祭りをやっていることが素晴らしいと感じる。
- 8 各地域のサロンや通いの場などを訪れると、賑やかだった時代の写真が飾られているところがある。今は少子化でそのような場所も少ないのだろうが、おじいちゃんやおばあちゃんの知恵を、子育てに対して共有できるような場があればいいなと思う。
- 9 運動会などの種目や時間が縮小されているのが寂しい。学校行事や縦割り班などで掃除をしたり、お楽しみ会をしたりする活動は思いやりの心が育つ良い事業だと思う。
- 10 給食費もそうだが、子どもの医療費も無料になってくれるとよい。
- 11 開志国際高校には日本の生徒と海外の生徒と一緒に学んでいるが、一年生時に言葉の壁があることが多く、解決することは難しい状況である。
- 12 生涯学習施設整備について、学生が集まれるところが胎内市にはないので、集まりやすい場所が良い。また、交通手段も併せて考えてほしい。
- 13 図書館は、人が集まる施設として、新発田のイクネスみたいな広い施設で座れるところが多く、コミュニティ部屋がある場所が良いと思う。また、巡回バスなどあれば更に利用しやすくなると思う。
- 14 高齢で車に乗れない方も増えているので巡回バス等を考えてほしい。候補地が嘉平山であれば、交通手段を考えてもらわないと高齢者は行けない。村上市のキナーレなども良い。

広くはないが本が充実していて高校生が勉強できる部屋がある。こじんまりしていても良いと感じた。

- 15 生涯学習施設には、習い事などで安い値段で借りられる部屋貸しがあると充実すると思う。また、集まれる場所があるとよい。オープンスペース・フリースペースとして有効利用できる場所であってほしい。
- 16 学校は少人数のため手厚くて良い面もあるが、少人数ゆえの悩みもあるのが、もう少し子育てについて手厚いと良い。

【2班】テーマ：『健康・福祉について』

【グループ】

*参加者：6名

*議員：厚生環境常任委員会（5名）

委員長 羽田野 孝子、副委員長 坂上 隆夫
委員 渡辺 栄六、渡辺 秀敏、平井 孝

【発言要旨】

- 1 介護保険料が県平均より高いので低くしてほしい。
- 2 認知症がひどくなると家で一人にすることはできず、やはり施設を利用しなければならない。親子二人では、親の介護に専念をするか、施設を利用して働くかのどちらかを選択しなければいけない。
- 3 デイサービス施設が閉鎖などで少なくなって困る。
- 4 胎内市は、各集落で介護予防運動などのサービスをよくやってくれていてありがたい。
- 5 市の健康診断の際に、隣の人のお話が聞こえるので、聞こえないような配慮が必要。
- 6 介護施設の仕事は、他の業種と比べても給料が安く、資格を持っていても離職する人が多く、人材不足に陥っている。
- 7 胎内市は、自然も豊かだし、すごく住みやすいけど、習い事をするところが少ないなど不便なところもある。
- 8 保育園の迎えがおじいちゃん、おばあちゃんだったり、小学校の運動会も午前中で終了するなど、交流の場が少なく、ママ友が作れなくて悩んでいる方が多い。一緒に遊ぶ幼馴染みを作ることができない。誰がどこに住んでいるのかも分からない。
- 9 他市から引越して来た人が、小学校の授業参観等に行っても、最初からいる保護者のグループに入っていけない。

- 10 市内の団体に所属したことで活動の場が増え、様々な人とのつながりができたことでストレス発散になる。市でも、そういった行事や活動を発信してくれると友達がいなくても何かに該当して、友達作りにつながるきっかけになると思う。
- 11 若い人と交流を持てる場が欲しい。
- 12 市の健診等の様々な情報は、市報を通じて発信されているが、二世帯住宅には、市報が1部しか配付されないの、2部にしてほしい。

【3班】テーマ：『産業・雇用・生活基盤・環境・防災について』

【グループ】

*参加者：4名

*議員：まちづくり常任委員会（5名）

委員長 増子 達也 、 副委員長 丸山 孝博

委員 渡辺 宏行 、 森本 将司 、 渡辺 雅茂

【発言要旨】

- 1 新たな生涯学習施設の基本計画案では、現在の図書館より広くし蔵書を増やすとしているが、本屋は閉店し、出版業界もゲームに注力、インターネットで定額読み放題サービスが提供されている時代に大規模な図書館機能が本当に必要なのか疑問。紙媒体ではなく電子書籍化していくべきだと思う。聖籠町で実施している移動図書館を胎内市でも行ってはどうか。
- 2 本がたくさんある大きな図書館は好きだ。そもそも胎内市がどのような子育てを目指すかが重要であり、それを反映した図書館機能であるべきだと思う。なぜこうしたいのかという明確なビジョンがあれば大きな図書館も良いと思う。電子書籍も移動図書館も良いと思うが、広いスペースで本を読んだり、勉強したりするのが、ゆったりとした胎内市の市民性に合っていると思う。
- 3 図書館に本があるのはとても幸せな事だと思う。それでも利用者が少ないのは施設が物寂しく感じ、行きづらい場所なのが原因ではないか。
- 4 若い人の本離れが寂しく感じている。子どもが小さな頃は、よく一緒に図書館に通った。今の保護者にそのような経験がなくなってしまうのは寂しく感じる。図書館は集中できる場所として重要だし、本のインクのにおいも感じる事も大切だ。今の時代と合わせながら、図書館や本の良い面も残していくべきだ。
- 5 親子のコミュニケーションの場として図書館は大切だと思う。絵本を増やし、絵本コー

ナーを広げてみてはどうか。小・中・高校の図書室も年間 200 冊くらい増やしているようで、図書館よりも充実していて、さほど図書館の必要性がないのでは。

- 6 市内には、室内の遊び場所がない。夏は酷暑で秋は短く冬は寒い。小学生は、ほんと HOT 中条を使用できないため、室内の遊び場が必要とされている。生涯学習施設に室内遊び場のスペースを広くとってほしい。
- 7 生涯学習施設の計画の事を知らない人が多い。また最近の子育て世代は、低所得の家庭が多く自分の事で精いっぱい、生涯学習施設の話をして聞かずに聞かれない。
- 8 パブリックコメントは、少数の利用者の意見だと思うが、その少数の意見を重要視しすぎるのは危険だと思う。
- 9 事業者にとっての働き方改革は負担だ。従業員の有給休暇や代休などは、事業者側の負担が増える事になる。これからの中小企業の未来を不安に思う。
- 10 物価（材料費、光熱費）が高くなっているが、商品になかなか転嫁できないでいる。
- 11 女性が活躍する世の中だというのが、組織の中では言動や人事評価など不平等感が未だに感じる。胎内市の人事評価はどのようになっているのか、それが女性の評価の指針になるのではないか。
- 12 胎内市には、大きな素晴らしい企業がいくつもあるのに、どうして定住が進まないのか。
- 13 熊の目撃や被害が増えている。山に近い民家では、柿の実がなっているが、市役所に連絡すれば柿もぎのボランティアを紹介してくれるので活用してほしい。
- 14 熊を駆除した際は、情報を周知してほしい。出没情報はよく見るが、出没情報だけだと不安で、駆除された情報を聞けば安心すると思う。
- 15 雑紙は、紙ごみとして出すことを徹底すべきだ。もっと市民全員に浸透させるべき。
- 16 家庭がうまく機能せず、学校が荒れているようだ。昔は祖父母が同居していたので親の代わりができていたが、今は両親とも共働きで忙しく、コミュニケーション不足もあるだろう。しつけも学校で行うものだと勘違いしているのでないか。
- 17 若い世代の貧困な家庭では、粉ミルクを薄めて飲ませたり、紙おむつもなるべく交換しないよう使用している。また、高校に行きたくても、お弁当を作ってもらえない、交通費をもらえないといった理由で学校に行けない人も増えている。
- 18 胎内市の学校では、無料の生理用品を置いていない。新発田市や村上市では、無料で置いているのでぜひ設置していただきたい。